

南の躍動

令和5年度 第4号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和6年1月17日



イボイモリ

奄美群島日本復帰71周年を迎えるに当たって

大島教育事務所長 溜 清弘

新しい年を迎えました。

能登半島で地震が発生し、多くの方々が被災されております。心よりお見舞い申し上げますとともに皆様の安全と1日でも早く復興できることをお祈り申し上げます。

去年は、奄美群島日本復帰70周年の記念の年として、奄美の先人たちの行動と勇気の歴史を風化させないように、様々な教育活動が各学校では展開されました。大島教育事務所においても、「奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット」（別掲）を作成したり、「奄美群島日本復帰70周年記念 第37回大島地区中学校弁論・ショートスピーチ大会」を開催したりしました。弁論では、「人と自然が共生する姿こそ本島の豊かさであり、ふるさと奄美の魅力を発信し続けていきたいこと」や「30年後、私たちが住む奄美群島がどうあってほしいか、この島で守っていくべきものは何かを考えながら未来予想図を描いていること」など、自分の生まれ育った奄美に誇りを持ち、大切にしたいという思いが伝わり、感銘を受けました。

今年も奄美群島日本復帰71周年を迎えますが、記念の年だけではなく、これから時代や世代が変わっても、先人の思いを受け継ぎ、現在から未来につなぎ、これからの人生をどのように生きていくのかを考える機会をつくり続けることが重要です。

奄美の先人たちの行動と勇気の歴史を風化させないように、単なる通過点とせず、奄美の歴史や文化、その将来について深く考えさせ、「人材の島」、「教育の島」と謳われている本地区の特性を更に生かした教育活動を展開してほしいと思います。そして、これからの社会を担っていく子供たちに、郷土に誇りと愛着を持たせられるように、皆様方と共に一生懸命取り組んでいきたいと考えております。

今年も、実りある一年となるように市町村教育委員会や各学校と一体となって頑張っていく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット
【小学校用】

12月25日を忘れないください

令和5年12月25日は、奄美群島が日本に復帰した70周年の日です。70年前、いったいどんなことがあったのでしょうか。私たちは、先人の思いを受け継ぎ、これからの社会をどのようにつくりていくべきでしょうか。

I 何があったのだろう

1945年（昭和20年）8月15日、日本は太平洋戦争で降伏しました。1946年（昭和21年）2月2日、北緯30度以南の奄美と沖縄を含む南西諸島は、日本本土と切り離され、アメリカ軍に統治されることになりました。島民は自由を奪われ、不便な生活を送ることになりました。

※ アメリカ軍の統治はアメリカの軍事基地や施設が設けられたこと

II アメリカ軍の統治下での人々の暮らしは、どのようなものだったのだろう

奄美群島は日本本土との自由な往来や通商、送金などが禁止された。

【食生活】	【お茶・仕事】	【教育】	【その他】
<ul style="list-style-type: none"> 食料が不足した。 アメリカ軍の食料品が約3割に値上がりした。 サツマイモ、ソラ豆のなか、芋の栽培、養蚕などで空室をしのいだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一目の労働賃金は、食料料金の約6割。 仕事がありません。 労働者の生活が壊れ、奄美の産業がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノートなし 紙、鉛、鉛筆、消しゴム不足 学校は、おまつりやふじき運動会の学校もなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 娯楽、芸術の不足 島の伝承 日本の新聞や雑誌を読むことができなかった。

極端に不便な生活

現在の私たちの生活と比べて、どんな違いがあったのだろう。また、不便な生活の中で人々は何のようなことを思っただろう。

奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット
【中学校・一般用】

12月25日を忘れないください

令和5年12月25日は、奄美群島が日本に復帰した70周年の日です。70年前、いったいどんなことがあったのでしょうか。私たちは、先人の思いを受け継ぎ、これからの社会をどのようにつくりていくべきでしょうか。

I 何があったのだろう

1945年（昭和20年）8月15日、日本は太平洋戦争で降伏しました。1946年（昭和21年）2月2日、北緯30度以南の奄美と沖縄を含む南西諸島と小笠原諸島は、日本本土と切り離され、アメリカ軍の統治下に置かれました。島民は自由を奪われ、不便な生活を送ることになりました。

※ アメリカ軍の統治はアメリカの軍事基地や施設が設けられたこと

II アメリカ軍の統治下での人々の暮らしは、どのようなものだったのだろう

日本本土と奄美群島間は自由な往来や通商、送金などが禁止され、生活に必要な物資や食料が入ってこなくなりました。食料不足は深刻で、アメリカ軍の支給する食料品が約3割に値上がりしました。人々はサツマイモ・ソラ豆のなかを食したみそやおかゆ・米の糞・果物・魚介類などを食べて空腹をしのいでいました。また、1日の労働賃金は、米2升分（現在の値段で約1,000円）ほどと極端に安いものでした。仕事はあまりなく、失業が増え、沖縄への出稼ぎも増え、奄美の活力は失われていきました。奄美の産業を支えていた黒糖の生産量は戦前の30%に、大黒糖の生産量も戦前の15%に低下しました。

さらに、日本の新聞や雑誌を読むことができなくなりました。学校教育も満足にできず、教科書やノートもなく、黒板や机、椅子も不足し、屋外で授業を行う学校もありました。人々は極端に不便な生活を余儀なくされました。

現在の私たちの生活と比べて、どんな違いがあったのだろう。また、不便な生活の中で人々は何のようなことを思っただろう。

奄美群島日本復帰70周年記念リーフレット【補助資料】

奄美群島日本復帰運動

令和5年 大島教育事務所

【リーフレット説明用プレゼン】

【（別掲）奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット】

【小学校用】

【中学校・一般用】

コアスクールプロジェクト〔コアスクール・エリア推進スクール〕

令和5年度、大島地区では、以下の7校のプロジェクト校（コアスクール，エリア推進スクール）を指定し、大島地区の教員の授業力や児童生徒の学力の向上を目的として、研究実践を行ってきました。これまでの取組を通して、どの学校においても、活発に授業研究を行う先生方の姿が見られています。

コアスクール	奄美市立小宿中学校
エリア推進スクール	大和村立大和中学校 宇検村立田検中学校 喜界町立喜界中学校 伊仙町立面縄中学校 知名町立知名中学校 与論町立与論中学校



【研究授業の様子(小宿中)】



【授業研究の様子(小宿中)】

今年度の成果として、主に「①観の交流を通して、育成を目指す資質・能力を重点化し、全職員が共通の目標にすることができていること（「表現力」〔小宿中〕，「説明する力」〔大和中〕，「変化に対応する力」〔田検中〕など）②単元や一単位時間で目指す生徒の姿を指導案に記載することで、授業者と参観者がイメージを共有した上で研修を行うことができていること」が挙げられます。本プロジェクトを通して、学び合う教師集団を構築するためには、全職員が「共通」理解し、「共通」の目標をもち、「共通」実践を図ることが大切であることを改めて見いだすことができました。一方で、授業研究を通して全職員で取組事項について協議をしても、共通実践が十分に図られていないことが課題として挙げられています。今後、これらの課題を解決することで、大島地区の教員の授業力、児童生徒の学力の向上を一層図っていきます。

令和5年度 鹿児島県PTA活動研究委嘱公開喜界町大会

令和5年11月25日(土)、喜界町立喜界中学校体育館にて、奄美群島12市町村から130人以上の参加者が集い、「学校・家庭・地域の連携・協働を生かしたPTA活動の推進」の研究主題のもと、標記大会が開催されました。学校や家庭だけでなく、地域を含めた社会全体で協力した子育ての充実が求められる中、喜界町PTA連絡協議会では、本研究主題を掲げ、児童生徒の健全な成長を図ることを目的とし、保護者と教師が協力して、学校及び家庭における教育への理解を深めたり、会員相互の学習を通して、家庭や地域の教育力の向上について学んだりしながら、会員の資質向上とPTA活動の充実・発展に向けて取り組んでこられました。研究協議では、喜界小学校、早町小学校、喜界中学校の各PTAの皆様が、これまでの「人材」「自然」「文化」等の地域のよさを生かしたさまざまな活動の具体的な取組とその成果を発表されました。また、講演会では、演題「命輝くふるさと大島～社会参加活動を考える“きかい”に～」と題し、前鹿児島市伊敷公民館長の河原橋和博氏に、これからの未来を担う子供たちが、充実した楽しい人生を送るため、PTA活動の重要性を再認識するとともに、PTAの活性化や充実のためのヒントとなる講演をしていただきました。次回は令和6年度に伊仙町で開催予定です。次回も素晴らしい大会となるよう、準備を進めて参ります。



【参加者の感想】

三校のPTA活動の充実ぶりがよく理解できました。喜界町の子供たちが校内・校外において積極的に活動している背景にPTAの会員の皆さんの積極的な取組があることがよくわかりました。PTA活動が充実していることがよくわかりました。

天城町の文化財 下原洞穴(したばらどうけつ)遺跡

下原洞穴遺跡は崖面に開口する洞窟に立地する遺跡で、この遺跡の発掘調査によって、これまで奄美地域において最古の土器型式であった南島爪形文土器よりも、更に古い土器文化が徳之島に存在していることが明らかとなりました。新たに見つかった土器は、波状(はじょう)条(じょう)線(せん)文(もん)土器と、隆起(りゅうき)線(せん)文(もん)土器と呼ばれる土器で、波状条線文土器は出土した地層の年代から、およそ、9千年前の土器と考えられ、一方の隆起線文土器も地層の年代から約1万3千年前のものと考えられています。これにより、約7千年前と考えられていた奄美地域における土器文化の開始が更に遡ることが明らかとなりました。下原洞穴遺跡には、これらの土器よりも古い旧石器時代の生活痕跡も見つかっており、この地域において、古い時期の人々の生活がどのように移り変わり、土器の製作が開始されるかを考えるうえで、極めて重要な遺跡です。

